川上 高司 ブログ アーカイヴ

2015年

2月3日

期待が高い次期国防長官アシュトン･カーター

まもなく次期国防長官に指名されたアシュトン・カーターの公聴会が開かれることになっている。上院軍事委員会の委員長であるジョン・マケインは、前任者のヘーゲルの時とは打って変わってカーターを絶賛している。知る人ぞ知る、カーターは「先制攻撃」論者であるからだ。これがマケインをして諸手をあげて承認賛成に駆り立てる。「かれほど有能な長官はいない」と、手放しで褒めあげており、カーターの承認は間違いないと言われている。ヘーゲルの公聴会では 8 時間に及び語気を荒げてしつこく追及していたが、やはり個人的な感情がかなり入っていたのかもしれない。

カーターは 11 人の国防長官に仕えた珍しい人物である。特に、オバマ政権になってからもゲイツ、パネッタ、ヘーゲルと歴代の長官の下で淡々と実務をこなしてきた。その腕前はゲイツが「最も長官にふさわしい」と褒めるほどである。しかも 5 年もオバマ政権下で副長官を務め、大統領をはじめスタッフとも近い距離にある。まさに満を持しての登場である。

だがカーター新長官を待ち受ける難問は待ったなしである。予算の強制削減、ＩＳＩＳ問題、イラク情勢、シリアやイエメンなどへの空爆、ウクライナをめぐるロシアとの関係、中国をはじめとするアジア情勢などまさに山積している。

国防長官の交代でオバマ政権の外交政策に変化が生じるのだろうか。イラクへの派兵があるのか、ないのか。世界の関心は新長官に向けられている。

2月28日

ネタニヤフ首相の米議会スピーチー吉とでるか凶とでるか

3 月 3 日、イスラエルのネタニヤフ首相は、上院、下院でスピーチをする予定になっている。下院のボーナー議長（共和党）がネタニヤフ首相を招待して首相が招待に応じたため実現するに至ったのだが、共和党はホワイトハウスの異議にも耳を貸さず民主党にも相談せず単独で決めた。民主党の反発は必至だろう。

これに対してスーザン･ライス国家安全保障担当補佐官は、ネタニヤフ首相のスピーチはアメリカとイスラエルの関係を「壊滅させる」と警告を発して阻止しようと躍起になっている。アメリカにおけるイスラエルのロビー団体であるＡＩＰＡＣですらこのネタニヤフ首相の議会でのスピーチを知らなかったようで、幹部はショックを隠せないでいる。彼らは共和党にも民主党にも偏らずにアメリカの政治に影響力を維持できるよう努めてきた。だがいつも共和党が多数派とは限らない。もし次期大統領がヒラリー・クリントンとなれば、あるいは次の選挙で議会で民主党が多数派となればイスラエルの影響力は確実に低下する。なんとかしてネタニヤフ首相の演説を阻止し

たいのだが、ネタニヤフ首相はどこふく風である。

イスラエルに理解のあるケリー国務長官ですらこの議会演説には否定的である。ネタニヤフ首相の演説の趣旨はおそらくイランとの核協議を非難することであろうとした上で、ケリー長官は「ネタニヤフ首相は間違っている」ときっぱり断言した。

オバマ大統領とネタニヤフ首相の冷たい関係はすでに定着して久しい。オバマ大統領は演説のためワシントンを訪れるネタニヤフ首相とは会わないようである。また上院議長のバイデン副大統領も公務のため演説時には欠席するという。

これだけはっきりとホワイトハウスから反対されているのに演説する気満々のネタニヤフ首相は、3 月 17 日の選挙を意識しているのだろう。その意欲は立派だが、それが中東情勢をますます混乱させひいてはイスラエルの国益を損ないかねないというリスクも負っていることも意識していほしいものである。